

おせき

思い出すまま

昭和13年卒 柴田 文子



卒業して六十六年、学生時代を思い出すと楽しかった事、苦懐かしさで一杯です。校門を入ると香は沈丁花の甘い香りに迎えられ今日も又頑張らなければと思いましたが、修身は丸山丈作先生、国語は伊井松蔵先生、化学は藤原タカ先生、物理は安河内次雄先生、体育は須田先生、鈴木タケ先生、図画は高橋重雄先生、音楽は河野清先生、家事は

秋山先生と真田先生、裁縫は菊地福先生、地理は今村キヨ先生、理科は佐藤先生、事務は酒井先生で、良い先生方に教えを受け楽しく授業を受ける事ができました。苦しかった事は学校から夜遅く家に帰ってからの夕食でした。この様に書いていますとお世話になった先生方一人一人の顔が次々と浮び上ってきて懐かしさで一杯です。

近辺雑話

昭和23年卒

長尾 てる子

いつも「ともかき」を有難うございます。原稿用紙等は、主人の清書を手伝っただけで、今では書き方も忘れて居ります。主人と別れて三年、十八年一緒だった、犬の「ジョーシ」も昨年逝ってしまいました。悲しい思いで居る等に、慰められ、励まされて、只今、少し落着いた処です。

今は「品川区の、シルバー大学で「学び、且つ遊び」と、兎に角、皆様の御健康と、御多幸をお祈り致し、ペンを置きます。



八甲の軌跡

昭和14年卒

田近 静枝

昭和十四年三月十八日、八甲、四十九名は卒業。今年は六十五年目の節目の年である。

大戦をはさみ、消息不明二十七名、又終戦後、連絡のとれた内、死亡七名、現在、十五名が年一回の級会（松韻会）を開いている。

卒業問近かに専検の資格が得られ、上級学校への進学が可能となり、甲、乙あわせて数人が進学することが出来た。

卒業時の担任松田正義先生の偉大な足跡は私達の誇りであり六十年後の今日、尚思慕の念を新たにしている。

級会帳をもとに昭和五十年以降の経過を辿ってみる。此の年先生は古希を迎えられて連絡可能な十九名が祝い品の品を差し上げる。翌五十一年五月十六日の級会に「松韻会」と

会員だより

○田口 仁子 18年卒

卒業して60年たち、後3年で母校がなくなるという事に衝撃を受けました。これも時代で仕方ない事なのか、私達の堪えに堪えた、それでも学校に着いたときの晴れ晴れとした心、そして社会人から家庭へ子育てと、学友皆で励ましあい苦勞を乗り越えて、今は老後を楽しんで過ごしています。学校がなくなっても、第六魂は永遠です。皆様これからもよろしくお願ひ申し上げます。丸山丈作校長先生のお顔が浮かんで参ります。

○平林 美佐子 30年卒

「ともかき」第27号ありがとうございました。卒業後学校の情勢、様子、恩師や同窓生の様子を知るただひとつの通信紙です。発行して下さいたい役員の方々、ありがとうございます。

十二年・平成五年には大分大教授として大分在住の先生の上京に伴い開く。特に後者は「新村出賞」を受けられた有意義な上京で、八甲、八乙、十、十一回の合同の会となった。

先生からは折にふれて座右の銘とも言うべき自筆の色紙をいただき、夫、大切に藏っている。尚、平成元年、三年の再度、有志数名で九州に先生を訪問御案内を賜わった。